

令和 6 年 6 月 13 日現在

機関番号：32689

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2019～2022

課題番号：19H02323

研究課題名（和文）ベトナム香江流域圏における歴史生態学的環境の持続的マネジメント計画論の構築

研究課題名（英文）Sustainable management planning theory of historical and ecological environment in the Huong River basin area of Vietnam

研究代表者

佐藤 滋（Satoh, Shigeru）

早稲田大学・理工学術院・名誉教授

研究者番号：60139516

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 13,470,000円

研究成果の概要（和文）：UNESCO世界文化遺産が集積するベトナムの古都フエ・香江流域圏を対象として、その構成資産を中核とした歴史生態学的環境の持続的マネジメント計画論の構築のため研究を進め、以下の成果を得た。  
広域的な山水景観の構成原理、阮朝初期4代皇帝陵墓圏を対象とした水制御システム及びその形成過程を解明し、この地域の山水景観が自律的な領域の繋がりとなり合いにより形成されている実態を明らかにした。こうした学術的な成果をもとに、2023年8月にフエ遺産保存センターと本研究チームが共催するシンポジウムを政府関係者、専門家が出席して開催し、研究成果をユネスコ世界遺産のマネジメント計画に反映する共通認識が得られた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

山水の文化的景観が集積する歴史文化遺産と自然環境が組み立てられて、まれに見る山水の造景をつくり上げているのが香江流域圏である。本研究は、流域全体と皇帝陵墓などの文化遺産を核とした小圏域を対象に、それぞれにおいてそうした山水景観の実態をGISシステムと現地でのフィールド調査により科学的に解明し、その価値を再認識する共通理解を得ることができた。これを元に世界文化遺産として流域圏全体を再登録する手続きに進むことになり、この成果は大きな社会的意義がある。さらに、エコスタディツアーの実装により地元の集落が参画し、内外の人々がこうした歴史文化遺産を学習する機会を創出した意義は大きい。

研究成果の概要（英文）：Research was carried out on the historic city of Hue and the Huong River basin in Vietnam, where UNESCO World Cultural Heritage property sites are concentrated, in order to develop a sustainable management planning theory for the historical ecological environment with its core components, and the following results were obtained.  
The composition of the shan shui landscape of the wide-area with mountains and rivers was clarified, the water control system and transformation process of the first four emperor's mausoleum area, including the Gia Long Imperial Tomb, were clarified, and the fact that the landscape is formed in a multilayered territories of environmental management was revealed.  
Based on these academic results, a symposium jointly organized by HMCC and our research team was held in August 2023 inviting governmental leaders and distinguished experts, and a common understanding was reached to reflect the research results in the management plan of UNESCO World Heritage Sites in HUE.

研究分野：建築学及び都市計画学

キーワード：山水景観 世界文化遺産 マネジメントプラン 景観構成原理 皇帝陵墓 水制御システム フエ ベトナム

## 1. 研究開始当初の背景

本研究は、科学研究費補助金基盤研究B(海外学術調査)『フエ歴代皇帝陵周辺集落との協働による歴史的環境マネジメント手法，H28-30(研究代表者：佐藤滋)』を発展的に継承する研究である。ここでは、主に阮朝初代皇帝の陵墓「嘉隆帝陵」の周辺における資源管理と集落住民との協働による環境マネジメントについて、カウンターパートのT. T. Hue省のフエ遺跡保存センターの協力を得て、エコツーリズムの社会実験を周辺集落有志らと協働で実施し、その可能性について知見を得た。これまでの一連の歴代皇帝陵の周辺環境に関する研究は、香江上流域において伝統的に行われてきた水路・水田管理をベースにした自然環境と共生する生活文化と遺跡の文化的景観の織りなす関係が、社会経済的環境変化に起因して失われつつあり、そうした関係性の再構築が必要であるとの認識から始められていた。歴史資産は本来、周辺の地域社会、及び生態学的環境と一体となって支えられており、遺跡単体のみの狭い圏域では保全できない。そうした中で周辺の自然生態学的な条件を元に形成された集落の生活・生産が一体となった環境を、文化的景観として持続的にマネジメントすることの重要性が一般にも認識されつつある。特にフエでは、風水地理説に基づいた「自然の中に墓や住宅のような人工物を計画する際には、その配置と設計によって気(風や水など)の流れを制御する」という理念が都市・地域全体から、伝統的庭園住宅の個別敷地にまで表現されており、当該研究が扱う歴代皇帝陵も同様である。これは、この地域に根付いた山水自然と共生し自らがその一部であるとの山水思想を基盤としている。本研究はこうした背景と認識のもとで展開された。

## 2. 研究の目的

本研究の主たる目的は、歴史文化資産が集積する地域の山水景観を保全するために、その歴史・生態学的環境との関係における構成原理を解明し、そうした科学的根拠に基づいて歴史文化資産と地域総体のマネジメントの方法を検討することである。具体的には以下4点である。

第1に、香江上流域を対象に、1)地理的条件と治水・利水など水マネジメントを軸とした自然生態システム 2)山水の造景と文化的景観 3)建築・建造物及び施設等からなる歴史文化資産の組み立て、の関係を環境構成原理として解明し、その形成プロセスを明らかにする。

第2に、環境マネジメントの単位として、香江流域全体と、歴史文化資産等を核とする小圏域Holonic Unit for Environmental Management (HUEM)の両方を設定し、文化的景観の組み立てと、周囲の水田の灌漑システムと皇帝陵の水利システム、それらを支える水利管理施設の実態と変容を、GISシステムを活用して実態解明を進めその価値と課題を明らかにする。

第3に、上記の成果を元に、皇帝陵墓を核とする小圏域において、歴史文化資産の管理主体であるフエ遺跡保存センターと連携し、集落が主体的に参画するエコスタディツアーの実装実験を行い、そうした内容を基盤とした環境マネジメントの方法を提示する。

## 3. 研究の方法

1) 研究対象の香江流域全体、及び皇帝陵墓圏などの小圏域を対象に自然地形、及び水文環境の実態を解明し、それぞれ地域の位置づけを行う。

2) 香江流域圏における都城、皇帝陵墓などにおける主要な山水景観の視点場と周辺山岳への視軸、見晴らしなどに関してGISシステムとドローン撮影による解析を行い、地域に共通する山水景観の造景手法と構成原理を解明する。

2) 歴史資料、現地調査、および集落長老へのヒヤリング調査の結果を集積し、4つの皇帝陵墓の形成及び環境変容過程、及びそのメカニズムを解明する。

3) 複合的な環境マネジメント圏域としての嘉隆帝陵墓圏において、水の制御に関わる大小の施設を整備した全体の仕組み、周囲の山々に囲繞された圏域の山水の景観構造を解明し、その価値と現状の課題を明らかにし整備方向を検討する。

4) 嘉隆帝陵墓圏で上記の研究成果をふまえ、フエ遺跡保存センターと共同して歴史的な山水景観と歴

史文化資産の保全とマネジメントの方向性を地元集落を含めて共通認識とするためのエコスタディツアーの実装実験を行い、その効果を検証する。

6) 研究全体を総括し、特に水利システムとの関係が深い流域圏を前提とした環境マネジメントの枠組みと方法を検討し、最終段階では関係機関を含めた国際シンポジウムを開催し、意見交換し、成果と提言を取りまとめる。

#### 4. 研究成果

##### 4-1 水文・地形・植生から見た香江流域の自然と生態の解明

香江流域は上流、中流、下流部で特徴的な地形・生態を有することを解明し以下の結果を得た。

香江の上流部は、標高 1000m を超えるバックマーハイバン山塊およびチュオンソン山脈に囲まれ、標高 50 100m 前後の丘陵地が広がる盆地状の地形が広がる。中流のターチャックダムより下流では、谷幅が約 1000m~3000m で、両岸には標高 10~30m の緩やかな起伏の丘陵地や河岸段丘が広がっている。この丘陵・段丘を刻む浅い谷の出口を閉塞するように、香江の河道に沿って比高約 5~6m の自然堤防が連続して発達している。古くからの集落の多くはこの上に位置しているが、近年は洪水被害を被るようになった。世界遺産でもある阮朝初代~3代の陵墓は、この地域の段丘地形を巧みに使って造営されている。下流のフエの海岸平野には、標高約 3m 以下の氾濫原と比高 1~2m の自然堤防が連続して発達している。フエ京城は、香江左岸のとくに自然堤防が幅広い場所を起点として整備された。

香江流域では、かつては上流域には亜熱帯の照葉樹林が、低地には落葉・半落葉の熱帯林が分布していたが、近年はアカシア・ユーカリの産業植林などによって、本来の森林は大きく変容した。

##### 4-2 香江流域に組み立てられた山水の構成と造景の仕組みの解明(図 1)

香江周辺の緑豊かな山々と雄大な香江の流れ、歴史遺産とその周りに広がる集落が、人々の営みを通して関係づけられた山水の構成について明らかにした。香江沿岸には、水を前面にその先の山々を一体的に眺められる多様な視点場があり、山水景観と生活環境や信仰の場が密接に結びつけられている。こうした景観を、建造物の軸線上に山頂を見通す視軸、香江及びその上空を移動するのに伴い変化するシークエンス景観、水辺から山への開けた眺望に分類し、この 3 つの組み合わせとして流域全体の山水の構成を解明した。景観分析には GIS(地理情報システム)を用い、特に視軸については建造物の軸線が相対する山の頂きに正確に向けられている実態を定量的に解析した。また阮朝の都城および初期三代の皇帝陵では、それぞれ水システムと山への景観が巧みに組み合わせられ、山水の小圏域が形成されている実態を明らかにした。以上を踏まえ、環境との共生をはかる都市や地域の構成原理として、山水の景観が多様な意図に基づいてデザインされてきたことを考察した。

##### 4-3 初期 4 代皇帝陵墓及び周辺集落における水マネジメントシステムの解明

阮朝初期 4 代皇帝陵墓は、それぞれ山々や丘陵に囲繞された独自の圏域を形成し、その環境制御のためこの地の気候風土に適応した適正技術によって巧みに環境と共生する仕組みが築かれている。陵墓前面に配置した池や周辺集落の水田を一体の水路ネットワークに組み込み、各所に埋め込まれた多様な水管理施設の継続的な維持管理を通して、水位の微細な変化に応答しながら治水・利水を実現する仕組みである。周辺の自然・地形、集落と一体となった各皇帝陵墓を中心とする水マネジメントの圏域を皇帝陵墓圏として抽出し、各圏域における陵墓前面の湖池を中心とする水システムの形成とその変容、周辺集落における水田の水管理の実態、全体の仕組みを支える水管理施設の役割、そしてこれらが組み立てられた水マネジメントの全体像について明らかにした。

##### 4-4 阮朝初代皇帝陵における水利施設及びシステムとその再生に向けた課題

阮朝初代の嘉隆帝陵は、「背山臨水」の風水思想に基づいて背後に小高い丘を背負い、前面に龍の形をした月湖と称される池が人工的に造成されている。この月湖では、雨季の大雨時には湖水が溢れることなく、また逆に乾季の少雨の際には湖底が干上がることなく、1年を通してある一定の水深を有す

る安定した水域景観となるように、綿密な水利システムが計画された。しかし、1945年の阮朝崩後、1960～75年のベトナム戦争、そして近年周辺の丘陵・山地での急速にアカシアなどの早生樹の産業造林が進み、月湖の護岸や各種の水利施設が損壊、その修復や管理も不十分なため、陵墓造成当時の水利システムが機能していない状況にあった。しかし、2019年よりフエ遺跡保存センターを中心に、月湖およびその周辺の構造物等の考古学的な発掘調査が実施され、順次月湖の護岸や水路などの修復や再生が進められている。

これまでの現地調査にもとづき、月湖を中心とした本来の水利システムの特徴を明らかにし、損壊した水利施設の修復および特徴的な水利システムの再生に向けての課題等について指摘した。

#### 4-5 嘉隆帝陵墓園をはじめとする初期4代皇帝陵墓の環境構成原理と環境デザインの解説

阮朝皇帝陵墓については、初代嘉隆帝陵墓と2代明命帝陵墓の陵墓域全体を示す絵図が残されている。阮朝初期皇帝陵墓はおしなべて周辺の自然環境を含めて小世界を構築することが目論まれているが、初代、二代皇帝陵墓はその残された絵図の解説を丁寧に行うことによって、周囲の自然環境を含む陵墓域全体で優れた環境デザインを読み取ることが出来る。絵図そのものも優れた山水図といえるもので、陵墓建設時に近い時期の建設意図が読み取れる。さらに、阮朝での風水地理説の受容、とその基盤にある、この地域で特有の「山水景観」の具体的な造景手法を知るに格好の資料となっている。絵図の解説をフィールド調査と併せて行うことによりその基本手法を、その後続く皇帝陵墓の造景手法を含めて解明し、それにもとづく阮朝ベトナムの山水の文化的景観の保全活用の方策を提示した。

#### 4-6 初期阮朝皇帝陵墓の形成過程と造景手法の解明(図2,3)

皇帝陵墓園の山水景観の全体像を解明することを目標とし、建設当時の地理的な条件もふくめて、仮説的な検討も含め、以下の方法により分析を進め成果を得た。

まず、1) 1927年発行の25,000分の1の地形図をもとに、陵墓完成時点の土地利用を仮定し、2) 上記と建設当時の歴史文書などをもとに、建設開始時点での土地利用図を想定復元し、3) 上記を通じて、陵墓建設時点における計画意図と造景技術を仮説的に解説した。

その結果、1) 皇帝陵墓の場所の選地がまずあり、構想検討段階で、全体の地形に適合させるべく陵墓、殿、寶城などの配置が決められ、2) 舌状の丘陵の尾根の裾野が陵墓の立地として選択し、3) 陵墓前面を円弧状に囲い、左右への流れのある三日月型湖を共通に設置し、4) こうした細部の形式と周辺も含めた水マネジメントシステムを統合し、5) これらと整合する水系と陵墓群の配置構成をデザインした。図2,3は嘉隆帝陵墓園の例を簡略化して示したものである。

以上により、乾季と雨季の降水量の差の激しい熱帯モンスーンに位置するこの地域において、湖の水位を一定の範囲におさめ、周辺水田への給水と排水をコントロールするための水制御システムを多様な施設と仕組みを組み立て、伝統技術と近代技術を融合して整備した実態を明らかにした。

#### 4-7 嘉隆帝陵墓園におけるエコスタディツアーの実装実験と山水景観のマネジメントの検討(図4)

一連の研究によりフエの皇帝陵群は、すでに世界遺産として価値付けされた建造物だけでなく、治水・利水技術や集落と一体なった文化的景観も内包する「山水造景」にも独自性のある価値があることが明らかになった。一方、この山水造景は、その特徴ゆえに近年の気候変動、観光開発のための土地改変、地元民による農林業の方法の転換により、往時とは異なる姿になりつつあり、今後も失われていく可能性があることも危惧されていた。

そこで、山水造景の価値を共有することによる保全と適切なマネジメントのために、皇帝陵の山水景観とそれを支えるさまざまな技術と仕組みの価値を体験し理解する方法として、エコスタディツアーを企画し試行した。その意図は調査研究の成果を活用して、関係機関、専門家そして集落住民と参画する人々が歴史のエコミュージアムとしての価値を理解し共有することである。現在、地元研究協力者により

社会的企業が設立され、エコスタディツアーが実装されつつある。こうした成果を元に地域が主体的に進める集落経済の振興と環境マネジメントのプログラムを検討した。

#### 4-8 山水の文化的景観のマネジメントの方法の検討

歴史資産が広域に点在するフエ・香江流域のマネジメント・システムとして、以下、5つの原則をその背景となる考え方とともに示した。

原則1: HUEM を基礎とした多重の適正技術の組み立て、 原則2: 集落を単位とするバッファゾーン、 原則3: 歴史遺産を含む歴史文化圏域 (HUEM) のネットワーク、 原則4: 聖なる場へのヴィスタライン等による文化的景観の尊重、 原則5: エコスタディツアーを契機とした HUEM 間の交流・連携。

こうしたマネジメントの基本は、様々な地域活動の自発性・自律性を高めて多様性を育み、それらの複合により、地域が持続的に発展するように仕向けることである。それとともに、これらの活動の基盤でもある自然・生態学的な基盤と調和して有機的な秩序が形成されている都市や集落、皇帝陵墓を核にした集水域などの自律的な構築環境の圏域 (テリトリー) を重視し、自律的で持続的な発展を図ることが重要である。そうした自律的な小圏域は空間的には重なり合い、またスケールも様々である。それぞれの HUEM をアーカイブ化し、共有し、それぞれが柔軟に連携できるような情報の集積と組み立てによる多重な関係による文化的景観と地域マネジメントの手法とアーカイブスを例示した。

以上の成果を元に、2023年8月に歴史文化遺産の保全に関わるベトナムの政府関係者、国内外の専門家を招聘したシンポジウムを開催し、マネジメントの方法とその方向性に関して共通認識を得た。

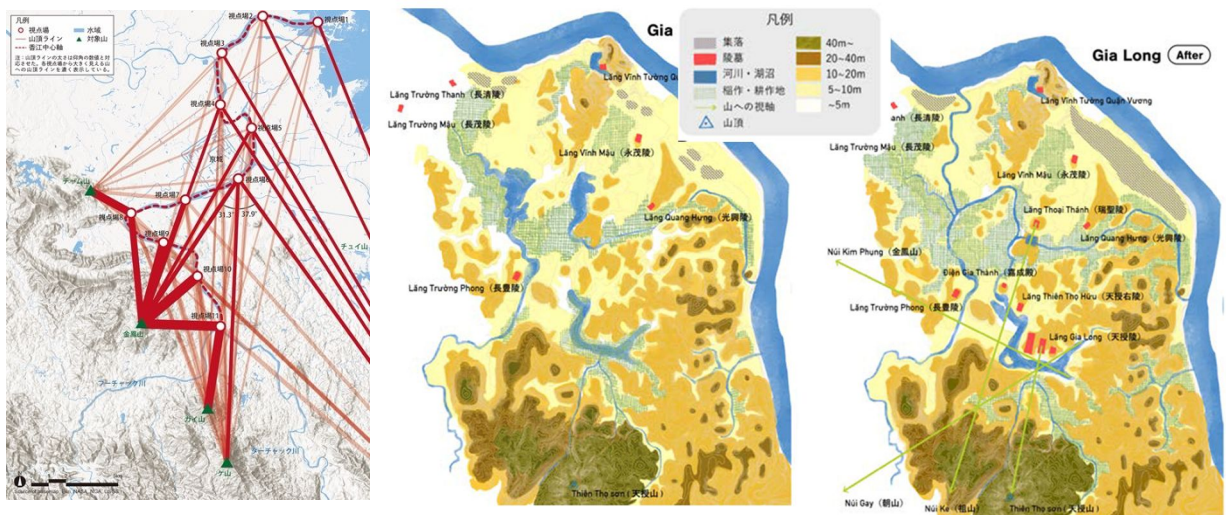


図1: 山水景観を構成する視軸の構成

図2: 嘉隆帝陵墓園の土地利用 (陵墓建設以前)

図3: 同左 (陵墓建設直後)

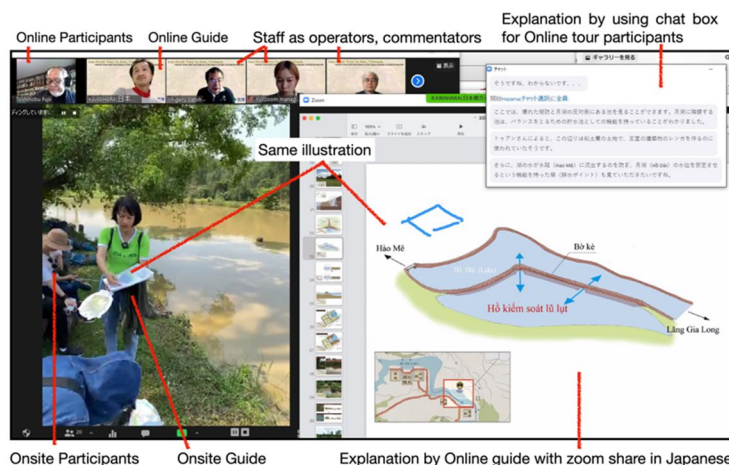


図4: 嘉隆帝陵墓園でのハイブリッドエコスタディツアーの社会実験の様子

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計23件（うち査読付論文 6件 / うち国際共著 4件 / うちオープンアクセス 16件）

1. 著者名 Keisuke Sugano, Kei Sakamura, Naomi Uchida	4. 巻 -
2. 論文標題 WHAT DOES 'AUTHENTICITY' MEAN IN JAPANESE CITIES? A CASE STUDY OF KANAZAWA CITY	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Integrated Planning In A World Of Turbulence: Book of Proceedings	6. 最初と最後の頁 484~501
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Sugano, K., Lu, S., Hooimeijer, F. L., & van de Ven, F. H. M.	4. 巻 -
2. 論文標題 A collaborative hybridity design approach: enhancing urban water resilience and spatial legibility	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 Journal of Urbanism: International Research on Placemaking and Urban Sustainability	6. 最初と最後の頁 1-25
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/17549175.2024.2333528	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 菅野圭祐	4. 巻 -
2. 論文標題 山水景観を基軸とする琵琶湖流域の地域構造 流域圏に重なり合う「小山水圏」	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 造景	6. 最初と最後の頁 14-19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 佐藤滋, 菅野圭祐, 山田大樹, 川原晋, 田中滋夫	4. 巻 2024
2. 論文標題 阮朝第3代皇帝紹治帝陵を中心とした小山水圏の形成とその創造的な修復・保全・マネジメントの方法 ヴェトナム・フエ京城都市の変容に関する研究(33)	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 日本建築学会大会梗概集	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤滋、田中滋夫、菅野圭祐、山田大樹、川原晋	4. 巻 2023
2. 論文標題 初期阮朝皇帝陵墓（嘉隆帝陵墓、紹治帝陵墓）の造景手法に関する検討 -ヴィエトナム・フエ京城都市の変容に関する研究(32)	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 日本建築学会大会梗概集	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 田中滋夫、佐藤滋、菅野圭祐、山田大樹、川原晋、	4. 巻 2023
2. 論文標題 嘉隆帝陵繪図における山水の描画方法に関する分析による景観計画の解明 -ヴィエトナム・フエ京城都市の変容に関する研究(31)	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 日本建築学会大会梗概集	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Sugano, K., Lu, S., Hooimeijer, F. L., & van de Ven, F. H. M.	4. 巻 -
2. 論文標題 A collaborative hybridity design approach: enhancing urban water resilience and spatial legibility	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 Journal of Urbanism: International Research on Placemaking and Urban Sustainability	6. 最初と最後の頁 1-25
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1080/17549175.2024.2333528	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1. 著者名 Keisuke Sugano, Kei Sakamura, Naomi Uchida	4. 巻 -
2. 論文標題 WHAT DOES 'AUTHENTICITY' MEAN IN JAPANESE CITIES? A CASE STUDY OF KANAZAWA CITY	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Integrated Planning In A World Of Turbulence: Book of Proceedings	6. 最初と最後の頁 484~501
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hiroki Yamada, Shigeru Satoh, Shigeo Tanaka, Yukihiro Hirai, Susumu Kawahara, Keisuke Sugano	4. 巻 30(1)
2. 論文標題 Methodology for Establishing the Appropriate Protected Area based on the Analysis of Old Drawings In case of Gia Long Mausoleum, Hue.	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Restauro Archeologico	6. 最初と最後の頁 464-469
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.36253/rar-14350	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 菅野圭祐	4. 巻 -
2. 論文標題 山水景観を基軸とする琵琶湖流域の地域構造 流域圏に重なり合う「小山水圏」	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 造景	6. 最初と最後の頁 14-19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hooimeijer, F. L., Sugano, K., B_ing, D., LaFleur, F.	4. 巻 15(3)
2. 論文標題 Subsurface visualization in the planning products of disaster scapes in the USA and Japan	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Journal of Urbanism: International Research on Placemaking and Urban Sustainability	6. 最初と最後の頁 282-321
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/17549175.2021.1883720	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Hiroki Yamada, Shigeru Satoh, Shigeo Tanaka, Yukihiro Hirai, Susumu Kawahara, Keisuke Sugano	4. 巻 1
2. 論文標題 Methodology for Establishing the Appropriate Protected Area based on the Analysis of Old Drawings; In case of Gia Long Mausoleum, Hue	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Restauro Archaeologico Anno XXX special issue	6. 最初と最後の頁 464-469
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -



1. 著者名 山田大樹、田中滋夫、川原晋、佐藤滋	4. 巻 2022
2. 論文標題 嘉隆帝陵墓の天授局圖卒が描く景観領域を踏まえた歴史的景観の保全計画範囲の試論：ヴェトナム・フエ京城都市の変容に関する研究(29)	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本建築学会大会学術講演梗概集	6. 最初と最後の頁 1087-1088
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 佐藤滋、 Zamaribide Alba,山田大樹、田中滋夫、川原晋、	4. 巻 2022
2. 論文標題 香江流域圏におけるHUEM (Holonc Unit for Environment Management) とバッファの組み合わせによるマネジメント計画の方法論に関する検討 ヴィエトナム・フエ京城都市の変容に関する研究(30)	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本建築学会大会学術講演梗概集	6. 最初と最後の頁 1089-1090
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 山田大樹、田中滋夫、川原晋、佐藤滋	4. 巻 2021
2. 論文標題 天授局圖卒の分析による初代嘉隆帝陵墓及び周辺領域の風水計画原理の解明 ヴィエトナム・フエ京城都市の変容に関する研究(25)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本建築学会大会学術講演梗概集	6. 最初と最後の頁 421-422
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 狭間 辰之、海老沢 結、川原 晋、山田 大樹、田中 滋夫、佐藤 滋	4. 巻 2021
2. 論文標題 嘉隆帝陵エコスタディーツアーとオンラインツアーの組合せに見るエコツーリズムとの親和性 ヴィエトナム・フエ京城都市の変容に関する研究 (28)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本建築学会大会学術講演梗概集	6. 最初と最後の頁 405-408
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 高村 楓・平井 幸弘	4. 巻 2022
2. 論文標題 世界遺産ベトナム・フエの遺跡群－BAVH所収の地図から復元したチャンハイ砦群－	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本地理学会発表要旨集, 2022a	6. 最初と最後の頁 56
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 中西 美裕,川原 晋,山田 大樹,田中 滋夫,佐藤 滋	4. 巻 2021
2. 論文標題 明命帝陵周辺地域における周辺集落の成立過程と文化的景観の変容 ヴェトナム・フエ京城都市の変容に関する研究 (26)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本建築学会大会学術講演梗概集	6. 最初と最後の頁 423-424
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 佐藤 滋,中西美裕,川原 晋,山田 大樹,田中 滋夫,	4. 巻 2021
2. 論文標題 孝陵局圖卒による明命帝陵墓の構成原理の解明と阮朝初期2代皇帝の世界観 ヴェトナム・フエ京城都市の変容に関する研究 (27)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本建築学会大会学術講演梗概集	6. 最初と最後の頁 425-426
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 佐藤滋,小泉 秀樹,寺田 徹,村山 顕人	4. 巻 69 (4),
2. 論文標題 インタビュー まちづくりプロセスが創出する重層的な都市像 (特集 都市像再考 : 計画における目標像の意義) -- (都市像の意義)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 都市計画	6. 最初と最後の頁 10-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 平井幸弘	4. 巻 65 (9)
2. 論文標題 ベトナム中部グエン朝初代皇帝陵における伝統的水利システムとその再生への課題(前編)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 地理	6. 最初と最後の頁 92-99
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 平井幸弘	4. 巻 65 (10)
2. 論文標題 ベトナム中部グエン朝初代皇帝陵における伝統的水利システムとその再生への課題(後編)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 地理	6. 最初と最後の頁 72-79
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 川原晋	4. 巻 31
2. 論文標題 観光産業と都市計画の連携～地域が一体となって取り組むこれからの観光地経営～	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 市街地再開発協会広報誌 CITY in CITY	6. 最初と最後の頁 3 - 12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計23件（うち招待講演 3件 / うち国際学会 5件）

1. 発表者名 佐藤滋, 菅野圭祐, 山田大樹, 川原晋, 田中滋夫
2. 発表標題 阮朝第3代皇帝紹治帝陵を中心とした小山水圏の形成とその創造的な修復・保全・マネジメントの方法 ヴィエトナム・フエ京城都市の変容に関する研究(33)
3. 学会等名 日本建築学会大会学術講演会
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 佐藤滋、田中滋夫、菅野圭祐、山田大樹、川原晋、
2. 発表標題 初期阮朝皇帝陵墓（嘉隆帝陵墓、紹治帝陵墓）の造景手法に関する検討 -ヴィエトナム・フエ京城都市の変容に関する研究(32)
3. 学会等名 日本建築学会大会学術講演会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 田中滋夫、佐藤滋、菅野圭祐、山田大樹、川原晋、
2. 発表標題 嘉隆帝陵繪図における山水の描画方法に関する分析による景観計画の解明 -ヴィエトナム・フエ京城都市の変容に関する研究(31)
3. 学会等名 日本建築学会大会学術講演会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 山田大樹、田中滋夫、川原晋、佐藤滋
2. 発表標題 嘉隆帝陵墓の天授局圖卒が描く景観領域を踏まえた歴史的景観の保全計画範囲の試論：ヴィエトナム・フエ京城都市の変容に関する研究(29)
3. 学会等名 日本建築学会大会学術講演会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 佐藤滋、Zamaribide Alba,山田大樹、田中滋夫、川原晋、
2. 発表標題 香江流域圏におけるHUEM（Holonc Unit for Environment Management）とバッファアの組み合わせによるマネジメント計画の方法論に関する検討 -ヴィエトナム・フエ京城都市の変容に関する研究（30）
3. 学会等名 日本建築学会大会学術講演会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 山田大樹、田中滋夫、川原晋、佐藤滋
2. 発表標題 嘉隆帝陵墓の天授局圖卒が描く景観領域を踏まえた歴史的景観の保全計画範囲の試論：ヴィエトナム・フエ京城都市の変容に関する研究 (29)
3. 学会等名 日本建築学会大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 佐藤滋、山田大樹、田中滋夫、川原晋、
2. 発表標題 香江流域圏におけるHUEM (Holonic Unit for Environment Management) とバッファの組み合わせによるマネジメント計画の方法論に関する検討 ヴィエトナム・フエ京城都市の変容に関する研究 (30)
3. 学会等名 日本建築学会大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 田中滋夫、佐藤滋、菅野圭祐、山田大樹、川原晋、
2. 発表標題 嘉隆帝陵繪図における山水の描画方法に関する分析による景観計画の解明 -ヴィエトナム・フエ京城都市の変容に関する研究(31)
3. 学会等名 日本建築学会大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 佐藤滋、田中滋夫、菅野圭祐、山田大樹、川原晋、
2. 発表標題 初期阮朝皇帝陵墓(嘉隆帝陵墓、紹治帝陵墓)の造景手法に関する検討 -ヴィエトナム・フエ京城都市の変容に関する研究(32)
3. 学会等名 日本建築学会大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 佐藤滋、菅野圭祐、山田大樹、川原晋、田中滋夫、
2. 発表標題 阮朝第3代皇帝紹治帝陵を中心とした小山水園の形成とその創造的な修復・保 全・マネジメントの方法
3. 学会等名 日本建築学会大会
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 千葉優美子, 和田拓将, 川原晋, 赤羽祐哉
2. 発表標題 "人を惹きつける表現を優先させた将来ビジョン「景観絵本」の策定とその実現への試行 - 行政計画に位置づけない八王子市中心市街地将来像の実現に向けた緑化と修景実験 - "
3. 学会等名 日本建築学会大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 中本夏生, 川原晋, 内矢智貴, 小川史弥, 大谷明日香, 菅原まどか
2. 発表標題 プロジェクトマッピング模型システムの観光・教育分野での活用にむけた実践研究 -大学の演習教育と日本遺産センター展示コンテンツ制作を事例として-
3. 学会等名 日本建築学会大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 HIROKI YAMADA
2. 発表標題 Methodology for Establishing the Appropriate Protected Area based on the Analysis of Old Drawings; In case of Gia Long Mausoleum, Hue
3. 学会等名 World Heritage in transition.About management, protection and sustainability (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Shigeru SATOH
2. 発表標題 Historic Eco-Museum of Hue-A lesson from the Gia Long Tomb,
3. 学会等名 World Heritage City Lab- Historic Cities, Climate Change, Water, and Energy, UNESCO (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 S. Satoh
2. 発表標題 Historic Eco-Museum of Hue -A lesson from the Gia Long Tomb-
3. 学会等名 UNESCO Urban Heritage Center World Heritage City Lab ; Historic Cities, Climate Change, Water, and Energy (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 山田大樹、佐藤滋、川原晋、田中滋夫
2. 発表標題 天授局圖卒の分析による初代嘉隆帝陵墓及び周辺領域の風水計画原理の解明 ヴィエトナム・フエ京城都市の変容に関する研究(25)
3. 学会等名 日本建築学会大会学術講演会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 佐藤滋、川原晋、山田大樹、田中滋夫
2. 発表標題 孝陵局圖卒による明命帝陵墓の構成原理の解明と阮朝初期2代皇帝の世界観 ヴェトナム・フエ京城都市の変容に関する研究(27)
3. 学会等名 日本建築学会大会学術講演会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 中西美裕、佐藤滋、川原晋、山田大樹、田中滋夫
2. 発表標題 明命帝陵周辺地域における周辺集落の成立過程と文化的景観の変容 ヴェトナム・フエ京城都市の変容に関する研究(26)
3. 学会等名 日本建築学会大会学術講演会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 狭間 辰之、海老沢 結、川原 晋、山田大樹、田中滋夫、佐藤滋
2. 発表標題 嘉隆帝陵エコスタディーツアーとオンラインツアーの組合せに見るエコツーリズムとの親和性 ? ヴィエトナム・フエ京城都市の変容に関する研究 (28)
3. 学会等名 日本建築学会大会学術講演会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Hiroki, Yamada
2. 発表標題 Sustainable Development For Historical-Cultural Heritage: Preservation & Conservation
3. 学会等名 The United Architects of the Philippines Makati Chapter 42nd Anniversary Celebration (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 平井幸弘
2. 発表標題 ハザードマップの実践的活用のために
3. 学会等名 日本地理学会
4. 発表年 2021年



1. 発表者名 石井萌美, 青木卓也, 川原晋
2. 発表標題 文化・芸術資源の価値保全に配慮した観光活用の準備のための『観光まちづくりオーラルヒストリー』調査 - 山口県長門湯本温泉に隣接する萩焼深川窯集落における調査からの考察 -
3. 学会等名 日本建築学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Alba Victoria ZAMARBIDE URDANIZ, Shigeru SATOH, Naoaki FURUKAWA, Yukihiro HIRAI, Susumu KAWAHARA
2. 発表標題 Experiences around the concept of “buffer” as integrator of nature-culture activity links and values for the historic ecosystems of the Nguyen Tombs in Hue, Vietnam
3. 学会等名 ICOMOS Advisory Council Scientific Symposium (国際学会)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 平井幸弘	4. 発行年 2020年
2. 出版社 丸善	5. 総ページ数 2
3. 書名 現代地政学辞典編集委員会編 『現代地政学辞典』湿地の保全と開発(ベトナム)	

1. 著者名 川原晋	4. 発行年 2021年
2. 出版社 日本都市センター	5. 総ページ数 20
3. 書名 都市自治体による今後の観光行政の論点ー日本都市センター報告書, 都市自治体におけるツーリズム行政持続可能な地域に向けて	

〔産業財産権〕

〔その他〕

2023年8月に開催した国際シンポジウム「RESEARCH ON THE VALUES OF CULTURAL LANDSCAPE OF HUE HERITAGE SITES AND THE SURROUNDINGS IN THE PRESERVATION AND ENHANCEMENT OF HUE MONUMENTS COMPLEX 'S VALUES」会議プロシーディングが、カウンターパートであるHMCCとWaseda Institute of Urban and Regional Studies により刊行されている。

エコスタディツアーに関しては、WELCOME TO ECO-STUDY TOUR—Gia Long Tomb  
<https://vietnamecostudytours.com>  
 に紹介されている。

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	川原 晋  (Kawahara Susumu)  (10367047)	東京都立大学・都市環境科学研究科・教授    (22604)	
研究分担者	平井 幸弘  (Hirai Yukihiro)  (30181134)	駒澤大学・文学部・教授    (32617)	
研究分担者	山田 大樹  (Yamada Hiroki)  (20727648)	帝京大学・付置研究所・講師    (32643)	
研究分担者	菅野 圭祐  (Sugano Keisuke)  (80778093)	筑波大学・芸術系・助教    (12102)	
研究分担者	古川 尚彬  (Furukawa Naoaki)  (80454106)	首都大学東京・都市環境科学研究科・特任助教    (22604)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	田中 滋夫  (Tanaka Shigeo)		
研究協力者	- -  (Nguyen Quang Huy)	Hue University・Lecture	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会 RESEARCH ON THE VALUES OF CULTURAL LANDSCAPE OF HUE HERITAGE SITES AND THE SURROUNDINGS IN THE PRESERVATION AND ENHANCEMENT OF HUE MONUMENTS COMPLEX 'S VALUES	開催年 2023年～2023年
--	--------------------

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関		
ベトナム	Hue Monument Conservation Center	T.T.Hue Center of Information Technology	Hue University